

孫基禎

1912年(大正元年)－2002年(平成14年)

孫基禎(ソン・キジョン、そんきてい)は、現在の北朝鮮出身の日本の男子マラソン選手。明治大学卒業。日本では1980年代以降、漢字表記のまま「ソン・キジョン」と韓国語読みで読まれる傾向が増している。

1936年ベルリンオリンピックには、朝鮮半島が当時日本に併合されていたため、孫は日本代表として出場し、当時のオリンピック記録となる**2時間29分19秒2**で**金メダル**を獲得した。

大会直後に朝鮮の新聞「東亜日報」にゼッケンの日の丸の塗りつぶされた写真が掲載され、当時の朝鮮総督府の警務局によって同紙記者の逮捕・発刊停止処分が下されるという事件が起きる。

(**日章旗抹消事件**)



孫基禎の生い立ち

1912年(大正3)	朝鮮の平安北道新義州に生まれる。
1913年(大正2)6歳	新義州の若竹普通小学校に入学
1926年(大正15)13歳	安義対抗陸上競技大会に出場し、5000m2位
1928年(昭和2)15歳	李一成先生の勧めで上諏訪町の呉服店に就職(朝夕トレーニング) 経営悪化で食堂に、トレーニングが出来ず新義州に戻る。 同益商会という穀物問屋に就職し、トレーニングを再開。
1932年(昭和7)19歳	養正高等普通学校に入学 ロサンゼルス五輪代表選考会に出場→成績振るわず
1933年(昭和8)20歳	第3回京永マラソンで優勝 第9回朝鮮神宮大会、マラソンで優勝
1934年(昭和9)22歳	第10回朝鮮神宮大会に出場、1500m1位、マラソン2位
1935年(昭和10)23歳	第3回京水街道マラソン大会に出場、マラソン1位 日本陸上選手権朝鮮予選大会に出場、マラソン1位 第11回朝鮮神宮大会に出場、マラソン2位 第8回神宮大会に出場、マラソン1位
1936年(昭和11)23歳	8/9ベルリン五輪のマラソンで優勝、8/25日章旗抹消事件が起きる



新義州市

鴨綠江

北朝鮮

大韓民国

黄海

北京市

天津市

济南市

郑州市

徐州市

大连市

青岛市

临沂市

평양

서울
ソウル

광주
クァンジュ

부산
プサン

제주
チェジュ

福岡

広島

Google

韓国の近代史(1897年～1910年)

大韓帝国 1897-1910 (日本の保護国の時期 1905-1910)

日清戦争 1894-95の清の敗北を機に、下関条約により朝鮮は清の冊封体制から離脱し、**朝鮮国**から**大韓帝国**と国号を改める(1897年)。

1904年 - 第一次日韓協約を結ぶ。(外交権は日本の承認が必要)

1905年 - 第二次日韓協約を結ぶ。(韓国政府の外交権の剥奪。事実上の保護国)

1906年 - **韓国統監府設置**

韓国政府の権力を無力化。

1907年 - ハーグ密使事件。

第三次日韓協約。(韓国軍解散、日本軍駐留の正当化)

1909年 - 韓国統監府初代統監**伊藤博文**が**安重根**により**ハルビン**駅で暗殺される。
4ヵ月後、死刑となる。この裁判権は韓国が持っていたが、日本が行い、
伊藤が殺された同じ時刻に死刑を執行した。韓国では「救国の偉人」

韓国併合 1910年

日露戦争（1904-05）の後、韓国を日本の保護国とする。

1905年 韓国統監府を置く。
初代統監は伊藤博文

1909年 満州で滞在中の伊藤博文が
安重根に暗殺される

1910年 日本の韓国併合
言論統制、出版、集会、結社の禁止
日本語、日本史の教育推進
所有者不明の土地没収

↓
不満が1919年三・一独立運動へ



地図のうえ朝鮮国にくろぐろとすみをぬりつつ秋風を聴く

石川啄木

韓国の近代史(1910年～1945年) 日本統治時代

1910年 - 日韓併合条約を結び、大日本帝国に併合される。

1912年 孫基禎誕生

1919年 - 三・一独立運動。大韓民国臨時政府が上海で設立。

1920年 - 満州東部の間島で独立軍の抗日武装闘争が激化。

1923年 日本で関東大震災。朝鮮人の多くが襲われ殺される。

1929年 - 光州学生運動

1936年 ベルリン五輪 孫基禎優勝

1937年 - 日中戦争 (盧溝橋事件)

皇国臣民ノ誓詞 (こうこくしんみんのせいし) が発布。

朝鮮総督府 / 土地調査事業 従軍慰安婦

1938年 日本語の強制

1939年 [朝鮮人労務者内地移住に関する件]を内務省が通牒し強制連行が始まる。

創氏改名公布

1940年 - 大韓民国臨時政府、重慶に移転し韓国光復軍を創設。

1945年8月15日 - 第二次世界大戦で日本敗北。朝鮮半島の日本統治が終わり、
連合軍の管轄になる (北緯38度線以北をソ連が、同以南を米国が管轄)

1932年 ロサンゼルス五輪に向けて

1932年、孫基禎、京城の養正（ヤンジョン）高等普通学校に19歳で入学

1932年、オリンピック代表を決める代表選考会（朝鮮）予選会が開かれる。
1万m 1位-金恩培（キムウンベ）、2位-孫基禎

オリンピック代表を決める代表選考会（日本）予選会が開かれる。
孫基禎は5000m、1万mに出場するが精彩を欠く。
マラソンでは権泰夏（クォン・テハ）が優勝

ロサンゼルス大会マラソンに、**金恩培**、**権泰夏**、津田晴一郎の3人が出場
結果⇒ 6位 9位 5位

内鮮融和・内鮮一体—朝鮮統治のスローガンで、朝鮮を差別待遇せずに内地（日本本土）と一体化しようというもの。朝鮮人の**民族運動**を起こさせないために、2名の朝鮮出身者が選ばれたことは、内鮮融和を象徴する。1936～

1936年 ベルリン五輪に向けて

- 1933年 京永マラソン (1位、但し24.1km)
- 1933年 第9回朝鮮神宮大会 初マラソンで1位
- 1934年 第10回朝鮮神宮大会 マラソンで1位
- 1935年3 神宮新コースマラソン大会 1位
- 4 全国マラソンデー京城大会 1位
2h25m14s (未公認の世界記録)
- 5 京水街道マラソン
2h24m28s (未公認の世界記録)
- 11 第8回神宮大会に出場 (五輪2次予選)
2h26m42s (公認の世界記録)
- 1936年2 2・26事件→朝鮮人の**民族運動**を警戒
- 5 最終選考レース
1位南昇龍(ナム・スニョン) 2位孫基禎

朝鮮의 피디피더스 ‘超人孫基禎’

마라손世界最高記録樹立의詳報

올림픽과 가장 由緒가 깊은 마라손競走。그距離는26
마일 385야드(四分一マイル)이오 米突로는 42750米突(日
本里數十里三十一町五二間三尺)로서 實로 그起原은 紀元
前四九〇年 波斯軍希臘征伐當時 마라손驛野의戰勝의 全
國民的 死活岐路의 吉報를 一秒一分이 빠르게 알려진
『피디피더스의 倒卒』하든 九月十二日、때는 흘러서 二千
四百二十五年이 지난고、올림픽아는 變하여 올림픽이되
었으며 世界各國의 젊은이로서 이겨서 가장 榮譽를삼
는 마라손。우리의 孫基禎君은 이번 東京에서 어떠한
하야 世界人類로서 아직까지 짓지못한 超人間的大記録
을지엿는가。勿論 마라손이란 世界公認이 없는지라 考
考니 疑이 불을택이없다。오직 東京에서지은 世界最
高錄으로 우리는 함께말하 同時에 이제 孫君走破의 簡
單한 經過를 紹介하기로 한다。

「超人孫基禎」と神宮新コースマラソン
大会での世界記録を報じる誌面、『東亞
日報』1935年3月24日

1936年 ベルリン五輪予選会

1935年 11月 第8回神宮大会に出場（五輪2次予選）

結果▶孫基禎1位 2h26m42s（公認の世界記録） 南昇龍4位



陸連「1932年のロス五輪は、金恩培、権泰夏という朝鮮人が参加し惨敗した。これは、朝鮮人2人を入れてチームが乱れたからだ。今回は、鈴木房吉、塩飽玉男（しわくたまお）の2人を代表にして、孫基禎、南昇龍(ナム・スヨン)のうち1人を代表にする。」

1936年 5月 最終選考レース 陸連「南昇龍は一位にならないとベルリンに連れて行かない」不当な取り決め

結果▶南昇龍1位 孫基禎2位 鈴木3位 塩飽4位

代表に4名が選手 南昇龍、孫基禎、塩飽玉男、鈴木房吉の4名。

陸連「4人をベルリンに連れて行って、現地で最終選考をする」
その結果で、出場3名、補欠1名を決めるという理不尽な決定。

ベルリン五輪(1936年)前後の世界情勢

- 1904年 日露戦争(～1905) ⇒ポーツマス条約
- 1910年 日本による韓国併合
- 1914年 サラエボ事件 第一次世界大戦が始まる(～1918)
- 1920年 国際連盟成立 **ドイツにナチスができる**
- 1922年 ムッソリーニ(伊)がファシスト政権を樹立
ソビエト社会主義共和国連邦、成立
- 1929年 世界恐慌はじまる
- 1931年 満州事変 ⇒「満州国」建国宣言
- 1933年 **ヒトラー内閣成立 ユダヤ人迫害が始まる(独)** ニュー・ディール政策(米)
- 1934年 **ヒトラー国家元首(総統)に(独)** (～1945)
- 1937年 盧溝橋事件
- 1939年 **独ソ不可侵条約** 第二次世界大戦が始まる(～1945)
- 1941年 **ドイツがソ連に宣戦** 太平洋戦争が始まる(～1945)
- 1943年 イタリアが降伏、ファシスト党解体
- 1945年 ヤルタ会談 **ドイツが無条件降伏** ポツダム会談 日本がポツダム宣言を受諾

ベルリン五輪 ナチスの台頭

▼国民社会主義者Nationalsozialistの略称ナチNazi

・第一次世界大戦後、ドイツでは多数の政党が結成され、そのうちの1つに**国民社会主義ドイツ労働者党**という政党があった。この政党のことを**ナチ党**と言った。ナチ党の指導者として有名なのが**ヒトラー**であり、反ユダヤ主義・反共産主義・植民地の再分割を掲げて国民の支持を得た。

・ヒトラー率いるナチ党が国民の支持を集め、1932年の選挙で第1党となり、翌年、ヒンデンブルク大統領はヒトラーを首相に任命しヒトラー内閣が発足。

・アウトバーン（ドイツーオーストリアを結ぶ高速自動車道路網）建設事業を通じて雇用を生み出し、多くの失業者を救済。

・四カ年計画 とよばれる軍事最優先の生産活動を実施し、兵器工場の拡大などを通じて雇用を生み出す。



ナチスの歩んだ道

- 1929年 世界恐慌 ヒトラーの台頭
反ユダヤ主義
- 1933年 国際連盟、ジュネーブ軍縮会議の脱退
ユダヤ人店のボイコット（朝10時～深夜0時）
- 1936年 **ベルリンオリンピック**
- 1938年 オーストリア併合
- 1939年 チェコスロバキア占領 ポーランド侵攻
- 1940年 ノルウェー、デンマーク占領
- 1941年 ソビエト侵攻
- 1945年 ヒトラー自殺

当初は、ユダヤ人をヨーロッパから追放することを考えていたが、領土拡大と共に、多くのユダヤ人を抱えることになり、ゲットーと呼ばれるユダヤ人居住区に一時的に集団隔離する。しかし、ゲットーでの餓死、伝染病の拡大があり、すぐに満杯となる。⇒ホロコーストへ

ヒトラーの描いた 1936年オリンピックベルリン大会

ドイツのスポーツから排除

1933年4月、すべてのドイツ人選手組織で**アーリア人のみ**の方針をとる。つまりユダヤ人またはユダヤ系、ロマ族（ジプシー）の選手は、ドイツのスポーツの施設や関連団体から組織的に排除される。

1936年8月、夏季オリンピックの開催中、ナチス政権は、**暴力的な人種差別政策を隠蔽**しようとしてしました。反ユダヤの看板のほとんどは一時的に取り外され、新聞では乱暴な発言が和らぐことになる。

ナチスは、オリンピックを利用して外国人の観衆や報道記者に平和で寛容なドイツというイメージを印象付けようとした。

1936年8月1日～16日

オリンピックベルリン大会

アドルフ・ヒトラーは、当初オリンピックを「ユダヤ人の祭典」であるとしてベルリン開催に難色を示した。しかし、側近から「大きなプロパガンダ効果が期待できる」との説得を受けて開催することに同意した。

ヒトラーがオリンピックの開催を決めた後は、オリンピックを「**アーリア民族の優秀性と自分自身の権力を世界中に見せつける絶好の機会**」と位置づけ、ベルリンだけでなくドイツが国の総力を挙げて開催準備を進め、短期間でオリンピック・スタジアム（オリンピアシュタディオン）や選手村、空港や道路、鉄道やホテル、さらに当時まだ実験段階であったテレビ中継などの受け入れ態勢の整備が進められた。

ベルリンオリンピックの開会式でオリンピック旗に敬礼するアドルフ・ヒトラー。1936年8月1日



ベルリンオリンピックボイコット運動

- ・ 1936年ベルリンオリンピックのボイコット運動がアメリカ、イギリス、フランス、スウェーデン、チェコスロバキア、オランダで表面化した。
- ・ 1936年夏にスペインのバルセロナで「人民オリンピック」を計画。（7/22～26）ベルリンオリンピック（8/1～16）に抗議するため計画された
- ・ ドイツからの亡命者を含む22か国から6,000人の参加が予定されていた。
- ・ 選手が到着し始めた1936年7月開幕当日にスペイン内戦が勃発したために**幻の大会**となった。



1936年オリンピックベルリン大会

4つの初めて

- ・オリンピック史上初めての  リレー
- ・オリンピック史上初めての  放送
- ・オリンピック史上初めての  中継 * 実感放送('32ロサンゼルス)
- ・オリンピック史上初めての  映画
⇨ レニ・リーフェンシュタール「民族の祭典」「美の祭典」



ナチスドイツ（ヒトラー）のプロパガンダ大会→ファシズムへの道

1939年9月1日、ドイツはポーランドに侵攻

1936年ベルリン大会

初めての聖火リレー

オリンピック復活40周年を記念して、古代オリンピアの栄誉を讃えるために、ギリシャの**オリンピアからベルリンへ**聖火をリレーで運ぶ。

(組織員会会長、カール・ディーム博士の発案)

聖火リレーのコースは**ナチス・ドイツの軍用コース**となり、ドイツが南下した国々は占領される。

※第二次大戦後、初めて開催された1948年ロンドン大会では、聖火リレーが二次大戦の戦略として利用されたという反省もあり、行うかどうか組織員会で論議された。結局、ベルリン・オリンピック同様に行うようになり、1949年に、オリンピック開会式の行事としてオリンピック憲章に加えられる。



1936年ベルリン大会 初めてのテレビ放送

開会式の聖火リレーは、ヒトラーによって初めて行なわれた。競技をテレビ中継したのもこの大会からである。

1935年4月18日に開局した ドイツ最初のテレビ局『パウル・ニプコー』はベルリンにあり、それを受信できたのは局周辺の60～80km圏内に限られていた。1日2時間の放送であったが、オリンピックのときは8時間の放送をした。一般には、テレビ室という所で、何人かでまとまって見たようだ。

ベルリンオリンピックをテレビで見た人の数は、総計で16万人と記録されており、科学技術の水準の高さに驚かされる。



ベルリンオリンピックで使われた巨大な テレビカメラ

1936年ベルリン大会 初めての実況中継

- 1932年のロサンゼルス大会は**実感放送**だった。これは、アナウンサーは現場で試合やレースをみてはメモを取り、それを会場から歩いて10分ほどのスタジオに戻って実況調でしゃべるといったものだった。
- 1936年ベルリン大会は、ロサンゼルスと違って競技現場からの実況中継が準備されていた。日本で放送されるラジオは、日本時間の午前6時半から7時、それに午後11時から午前零時までの2回。
- 当時のドイツは夏時間制度を採用していないため、日本との時差は8時間である。この大会では、音声をレコードに録音する手法も用意されたから、日本向けの**朝の放送は実況録音の再生**、日本の夜の放送だけが**現場からの生実況**となった。

1936年ベルリン大会 初めての記録映画

『**オリンピア**』は、1938年にドイツで製作された二部作からなる1936年ベルリンオリンピックの記録映画。

監督は**レニ・リーフェンシュタール**。日本では開会式から男子マラソンまでの21種目、9日間の記録である。

『**民族の祭典**』および陸上競技以外の17種目から16日の閉会式までの記録である『**美の祭典**』として公開された。

第二次世界大戦が終わると、ナチスのプロパガンダを押し進めたという理由で、一転、社会的な制裁を受ける。



移動カメラで撮影するリーフェンシュタール

1936年オリンピックベルリン大会 日本からの参加選手

1936年8月1日、ベルリンの大競技場で10万の大観衆を前にヒトラーが開会を宣言。参加国49、選手3936名、実施競技21、種目129。日本選手も249名が参加した。

三段跳びの田島直人、「前畑がんばれ！」で有名な前畑秀子が女子で最初の金メダルを獲得した。また男子マラソンでは「日本代表」の朝鮮人孫基禎が優勝。

一金メダラー

田島直人（陸上競技男子三段跳）

孫基禎（陸上競技男子マラソン）

男子競泳（4×200mリレー）

前畑秀子（競泳女子200m平泳ぎ）

葉室鐵夫（競泳男子200m平泳ぎ）

寺田登（競泳男子1500m自由形）



競泳女子200m平泳ぎで優勝した前畑秀子の表彰式の様子